

マメグミ	<i>Elaeagnus montana</i> Makino	絶滅危惧Ⅱ類	
		グミ科	
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。	<p>写真(高橋弘)</p> 	
形態の特徴	高さ2-3mになる落葉小高木。葉は互生、質は硬く、波状縁で、卵状楕円形～楕円形で、先は尖る。花期は6-7月。葉腋に1-3個の花が垂れ下がってつく。花は6-8mmの円筒形で、白色から次第に黄色みを帯びる。果実は長さ9-11mmの広楕円形で、7-9月に紅熟する。		
生態的特徴	山地のブナ帯の林内や林縁に生える。		
分布状況	本州(関東南部～鈴鹿・伊吹山地)、四国、九州に分布する。県内では県北の南部及び県南の西部・南部に生育する。		
減少要因	本種の分布域は県北及び県南のかなり広い地域にわたっているが、もともと生育個体数は少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。		
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。		
特記事項			
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 木本Ⅱ」平凡社(1989)		

文責:佐藤和良